

感染症情報 8月20日～26日

府下小児科199医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	690例(堺市	32例)
②RSウイルス感染症	338例(堺市	29例)
③ヘルパンギーナ	315例(堺市	30例)
④溶連菌感染症	235例(堺市	36例)
⑤手足口病	146例(堺市	4例)

府下インフルエンザ定点305医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	5例(堺市	0例)
---------	-------	-----

が報告された。

お盆の影響で第33週が減っていたので、第34週は33.5%増の2,096件であった(第32週と比較すると8.2%増)。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症、手足口病の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より40%増、堺市では前週より88%増であった。RSウイルス感染症は府下で前週より4%減、堺市で38例→29例は24%減であった。ヘルパンギーナは府下で前週より38%増、堺市で17例→30例であった。溶連菌感染症は府下で前週より61%増、堺市では前週18例→36例であった。手足口病は府下で前週より10%増、堺市では前週20例→今回4例であった。

麻疹の報告はなかったが、風疹が1例あった。